

50周年記念誌



筑後市消防本部



昭和40年(1965)



昭和31年(1956)



昭和41年(1966)



昭和52年(1977)



平成27年(2015)



目次

- ◆ 挨拶(市長・消防長) 1 ~ 2
- ◆ 筑後市と消防組織 3 ~ 6
- ◆ 消防本部50年のあゆみ 7 ~ 10
- ◆ 消防業務(警防・予防・総務) 11 ~ 18
- ◆ 統計資料等 19 ~ 20

平成23年(2011)

ごあいさつ

筑後市消防本部は、昭和40年4月に発足し、今年で50周年という大きな節目の年を迎えました。これまで市消防行政の発展のためご尽力賜りました関係各位に、衷心より感謝申し上げます。



筑後市は、筑後平野の中央に位置し、清流矢部川沿いの豊かな田園都市で、福岡までJR九州在来線で45分、新幹線で24分、また車でも九州自動車道八女インターチェンジから1時間弱と交通の利便性も高いことから、早くから企業誘致も進み、周辺のほとんどの自治体において人口流出が続く中、5万都市を目指し、順調に発展してきました。

このような市政の発展、人口が増加していく中で、開設当初職員数17名、消防タンク車1台という体制で、主に火災に対応するよう組織された消防本部も、今では職員数47名、消防ポンプ車、タンク車、工作車、梯子車が各1台、救急車3台と、消防への期待が増していく中で少しずつ充実してきました。

一方、近年では、今まででは想定できなかった自然災害が各地で頻発しています。筑後市でも平成3年の台風17号、19号や平成24年の九州北部豪雨の際には大きな被害を受けた事は記憶に新しいところであり、災害に強いまちづくり、防災力の向上が不可欠であります。

また、今後は、高齢化がさらに進むことから、救急に対する需要が高くなることが懸念されており、そうした事態への対応も必要となります。

このように、消防を取り巻く環境は複雑多様化していますが、消防の責務は、その持てる装備及び人員を駆使し、市民の生命、身体、財産を火災やその他の自然災害等から保護するとともに、こうした災害からの被害の軽減を図るほか、災害等による傷病者等の搬送を適切に行うことに変わりありません。この50年という歴史、経験の積み上げを今後の活動の糧として、また、市民の皆様との協働により、今後も一層安全安心のまちづくりに傾注してまいります。

結びに、消防行政に対します皆様の一層のお力添えをお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



市の木(クスノキ)

筑後市長
中村 征一

発足五十周年を迎えて

昭和40年4月に筑後市消防本部・消防署が設置され節目の50年を迎えました。この間、市当局・市議会・消防関係各位のご支援ご協力を頂き深く感謝申し上げます。



発足当時、消防職員17名でスタートし、それから半世紀、先輩諸兄のご尽力により消防力は増強されてきました。そして、現在1本部1署、消防職員47名によって筑後市民の生命身体財産を火災等から保護し、社会公共の福祉の増進に資することを目的として日々消防活動を行っています。

また、消防団や防災協会、消防設備士会、女性防火クラブ、幼年消防クラブなど各組織の皆様方の御支援ご協力により筑後市の防災力は着実に向上しています。

この50年、社会情勢や自然環境も大きく変化しました。高齢社会を迎え救急需要が増大するとともに、平成7年の阪神淡路大震災・平成23年の東日本大震災・平成24年の九州北部豪雨など大規模な自然災害が各地で発生しています。このような状況の中、消防を取り巻く環境は大きく変化し消防への期待はこれまで以上に強く感じているところです。

この様な期待に応えるため、市民の皆様から信頼される消防組織となり、安全で安心して生活できる筑後市を目指し、消防職員一人ひとりが「熱意」を持って「創意工夫」し「誠心誠意」邁進して参ります。

結びにあたり、関係各位におかれましては、今後とも筑後市消防に対する尚一層のご理解とご支援をお願いしまして、発足50周年を迎えてのご挨拶と致します。



市の花(サザンカ)

筑後市消防本部
消防長 吉武 浩治



市章
(昭和29年10月制定)

筑後市

総人口：48,959人

世帯数：18,238世帯

面積：41.78 km²

(平成27年3月31日現在)



市中心部を西上空から望む(平成23年9月)

筑後市は、福岡県の南部筑後平野の中心にあり、東は八女市、北は久留米市・八女郡広川町、西は久留米市三潴町・三潴郡大木町・柳川市、南はみやま市と境を接し、市全体が海拔5メートルから40メートルの平坦な地帯となっています。

市が誕生したのは、昭和29年4月です。羽犬塚町、水田村、古川村、岡山村(一部)が合併して筑後市となりました。その後、三潴郡西牟田町と八女郡下広川村の一部を編入合併し、現在に至っています。市域は東西7.5km、南北8.2km、面積41.78km²です。

市街地はJR羽犬塚駅と国道209号、国道442号沿線を中心に形成されています。この地は、古くから西海道が通じる交通の要衝でした。薩摩(坊津(ぼうのつ)街道は、それぞれの地域の文化をもたらし、古来の文化をベースに磨かれた独自の文化を生み出しました。

南部には八女市の山間部を源とする矢部川の清流が流れ、河畔には日本有数の炭酸含有量を誇る船小屋温泉郷があります。

温暖な気候と肥沃な土地、恵まれた水を利用して農業が盛んに行われています。古くから米・麦・イグサ・ナシ・ブドウ・茶などが栽培されてきました。特にナシが天皇杯を、また茶が農林水産大臣賞を受賞するなど優れた品質を保っています。また、近年では地元食材を学校給食に取り入れるなど、地産地消による農業振興にも力を入れています。

昭和46年からの企業誘致政策により多くの企業が進出し、人口は増加傾向にあります。また、平成23年3月に九州新幹線筑後船小屋駅が開業し、県営筑後広域公園など駅周辺の開発が進んでいます。更に平成28年3月に、福岡ソフトバンクホークス(株)の新ファーム本拠地球場「HAWKSベースボールパーク筑後」が開業予定であり、農業・工業・商業・観光の調和のとれた街として発展しています。

筑後市管内概況図



凡 例	
	JR 鹿児島本線
	九州新幹線
	九州高速自動車道
	国道 209・442 号線
	消防団分団区域
	消防本部
	消防署
	消防団本部
	消防分団本部

筑後市のみどころ



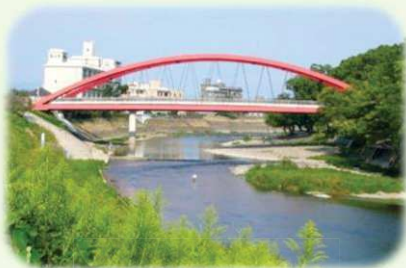
追儺祭(熊野)



羽犬伝説(羽犬塚)



盆綱引き(久富)



矢部川(船小屋)



筑後市PRキャラクター



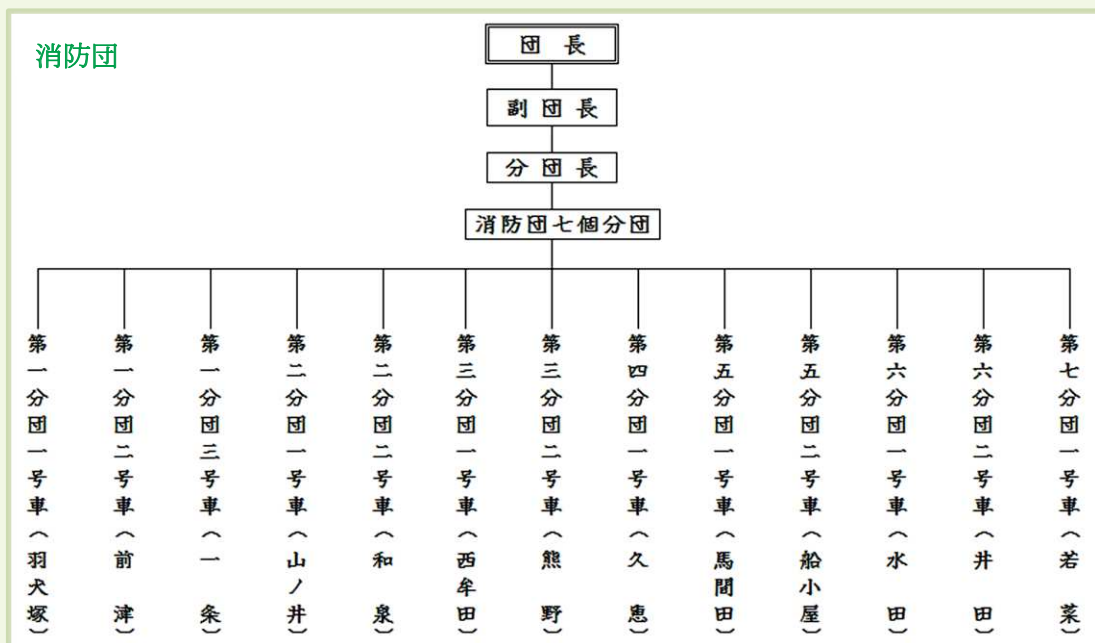
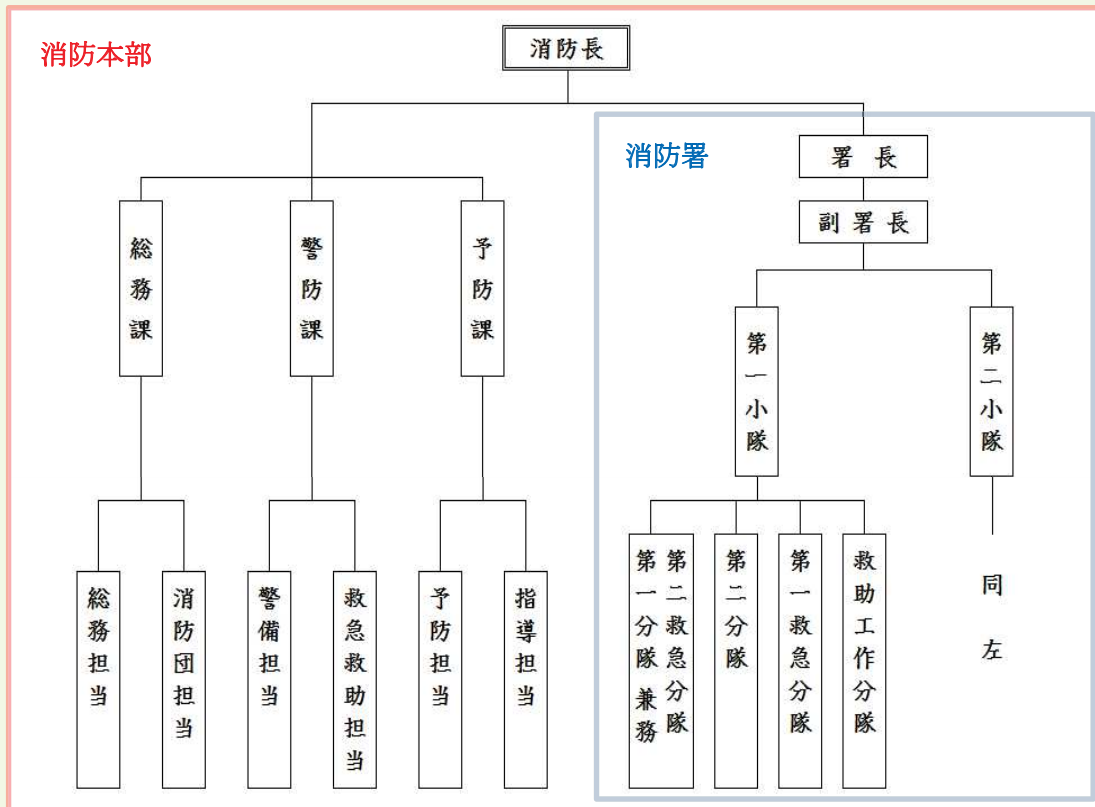
水田天満宮(水田)

筑後市の人口・世帯数推移



筑後市消防組織

名 称	位 置	管轄区域
筑後市消防本部 (筑後市消防署)	筑後市大字山ノ井900番地	筑後市一円



筑後市消防本部 50年のあゆみ



初代
河野在文
S.40.4.1～

昭和40年 4月 政令の指定により、消防本部、
消防署設置、定員23名
(実員17名(内1名事務吏員))
ポンプ自動車1台配置し市公民館
の一部を仮庁舎として発足。



昭和41年 3月 消防庁舎完成、仮庁舎より移転。
所在地 筑後市大字山ノ井900番地
敷地面積 836㎡
庁舎面積 建面積 280㎡
延面積 716㎡



// 4月 職員7名を採用、定員23名に充足。

// 10月 水槽付消防ポンプ自動車1台を
購入配置。

昭和42年 4月 市長部局で執行していた消防団事務を消防本部へ移管。

昭和44年 7月 職員定数を29名とし、6名採用。

9月 政令の指定により救急業務開始、救急自動車1台配置。

12月 火災出動途上職員1名殉職、筑後市消防本部葬執行。

昭和46年 4月 消防指令車購入配置。

昭和48年 6月 職員定数を32名とし、
3名採用。



// 11月 九州自動車道鳥栖・南関間開通
に伴い日本道路公団より救急車
1台の寄贈を受けて高速道路の
救急業務開始。

昭和49年 1月 消防本部に課制設置
(総務・警防の2課)。

// 4月 職員定数35名とし、3名採用。

昭和50年 9月 国際ライオンズクラブ筑後部会
より広報車(ライオンズ号)寄贈。



昭和51年12月 国際ライオンズクラブ筑後部会
よりバイク(70CC)2台寄贈。



第二代
目野多一
S.52.5.20～

昭和52年 6月 潜水救助器具を購入し、
水難救助業務の強化を図る。

// 11月 消防指令車更新。





第三代
森 基一
S.53. 3. 2~

- 昭和53年 9月 消防署車庫67平方メートル増築。
- 昭和54年 7月 福岡県共済農業協同組合連合会より、救急車1台寄贈。
- 〃 8月 水槽付消防ポンプ自動車1台を更新。
- 〃 10月 高圧ガス(圧縮空気)容器充填室を増築。
- 昭和55年 3月 山之内製薬(株)より救急車1台寄贈。
- 〃 8月 石橋工業(株)よりバイク(50CC)1台寄贈。
- 昭和56年 4月 筑後電工より救助工作車寄贈。
- 昭和57年 2月 福岡県防災行政無線開局。
- 〃 3月 消防署、車庫51平方メートル増築。
- 〃 11月 無線サイレン制御装置設置(西牟田、船小屋、馬間田)。



第四代
木本 保男
S.58. 5. 1~

- 昭和58年 3月 消防救急通信指令システム設置。
- 〃 5月 消防本部に次長制設置。
- 昭和60年 7月 無線サイレン制御装置子局1基増設(井田)。
- 〃 9月 消防ポンプ自動車(CD I 型)更新。



第五代
田中 益穂
S.61. 5. 1~

- 昭和61年 6月 第六代消防団長よりワードプロセッサ1台寄贈。
- 昭和62年 2月 無線サイレン制御装置子局1基増設(久患)。
- 〃 3月 非常用自家発電設備設置。
- 〃 12月 福岡県共済農業協同組合連合会より、救急車1台寄贈。



第六代
木本 和行
S.63. 7. 1~

- 平成 元年 2月 消防指令車更新。
- 〃 10月 救助器具(油圧カッター)購入配置。
- 〃 〃 福岡県共済農業協同組合より、救急車1台寄贈。
- 平成 3年 9月 救助器具(ハイパワースプレッダー)購入配置。
- 平成 4年 2月 筑後市消防本部防災功労により福岡県知事表彰受賞。
- 〃 4月 職員定数を37名とし、2名採用。
- 〃 11月 救助工作車(II型)更新。救助資機材購入配置。
- 平成 5年 3月 消防職員定数条例改正、職員定数を45名とする。
- 〃 〃 消防訓練場用地1,470㎡購入取得。
- 〃 7月 財団法人日本防火協会より防火広報車寄贈。
- 〃 9月 水槽付消防ポンプ自動車更新。
- 〃 10月 消防職員3名を採用、実員40名。
- 平成 6年 3月 消防訓練場造成工事竣工。
- 〃 4月 消防職員2名を採用、実員42名。





第七代
島上寛治
H.7.4.1~



第八代
荒木邦彦
H.11.4.1~



第九代
松藤 元
H.14.9.1~



第十代
堤 秀信
H.16.4.1~



第十一代
井寺藤彦
H.22.4.1~

平成 7年 4月
" "

はしご付消防ポンプ自動車購入配置。
署待機室増築及び車庫の改築。
消防職員3名を採用、
45名に充足。
消防本部組織規則を改正、
3課6係設置。



平成 8年 1月
" 10月

福岡県共済農業協同組合連合会より救急車1台寄贈。
防災協会理事よりエチレンガス滅菌器寄贈。

平成 9年 2月

消防通信指令室増築。



平成10年 3月

消防緊急通信指令装置更新。

平成12年 7月
" "

消防ポンプ自動車(CD-1型)更新。
高規格救急自動車購入配置。



平成14年12月

消防指令車更新。

平成17年 7月
" 10月

潜水訓練中職員1名殉職、筑後市消防本部葬執行。
高規格救急自動車1台購入配置。

平成18年 5月

第六代消防団長ご令室および第八代消防団長より防火
広報車寄贈。

平成21年 3月

筑後市消防本部防災功労により消防庁長官表彰、
表彰旗受賞。

平成22年 3月

高規格救急自動車
1台購入配置。



平成22年 9月

救助工作車(II型)更新。救助資機材購入配置。

平成23年 2月

福岡県消防協会より消防団司令車受領。

" 3月

水槽付消防ポンプ自動車
(水-II型)更新。

" "

消防庁舎耐震補強。





平成23年 3月 11日14時46分、東日本大震災発生。
 “ ” 緊急消防援助隊として
 宮城県へポンプ車(4名)出動。



平成24年 7月 11日から14日にかけて
九州北部豪雨発生。

平成25年 4月 職員定数を47名とする。
(内1名事務吏員)



平成26年 4月 職員2名採用、
定員47名に充足。

平成27年 4月 市、機構改革により3課6担当設置。
 “ 9月 筑後市防災協会より公用車寄贈。

平成28年 4月 筑後地域8消防本部で
筑後地域消防指令センター
の共同運用開始(予定)。



歴代消防長

代位	氏名	就任	退任	在職期間
初代	河野 在文	昭和40年 4月 1日	昭和52年 5月 19日	12年 0月
二代	目野 多一	昭和52年 5月 20日	昭和53年 3月 1日	9月
三代	森 基一	昭和53年 3月 2日	昭和58年 4月 30日	5年 2月
四代	木本 保男	昭和58年 5月 1日	昭和61年 4月 30日	3年 0月
五代	田中 益穂	昭和61年 5月 1日	昭和63年 6月 30日	2年 2月
六代	木本 和行	昭和63年 7月 1日	平成 7年 3月 31日	6年 9月
七代	島上 寛治	平成 7年 4月 1日	平成11年 3月 31日	4年 0月
八代	荒木 邦彦	平成11年 4月 1日	平成14年 8月 31日	3年 5月
九代	松藤 元	平成14年 4月 1日	平成16年 3月 31日	1年 7月
十代	堤 秀信	平成16年 4月 1日	平成22年 3月 31日	6年 0月
十一代	井寺 藤彦	平成22年 4月 1日	平成23年 3月 31日	1年 0月
十二代	佐野 末廣	平成23年 4月 1日	平成25年 3月 31日	2年 0月
十三代	吉武 浩治	平成25年 4月 1日	—	現在

警 防 課

警 備

筑後市は人口増加、都市化、建物の高層化、住民の生活様式多様化等による社会情勢の変化に伴い、火災などの災害が複雑化しています。これらの災害に迅速的確に対応するため、日々訓練を実施し専門的知識と技術の習得に努めています。また、住民の安全と安心を確保するために24時間万全の体制をとっています。



筑後市総合防災訓練



車両火災想定訓練

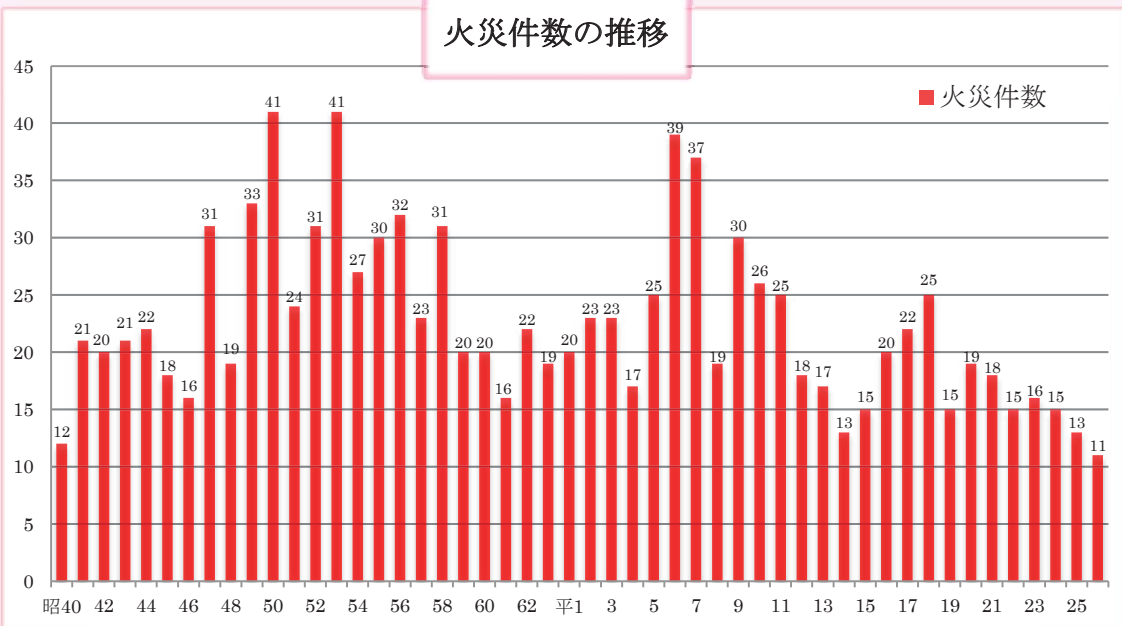


近隣消防とのNBC災害合同訓練



福岡市消防航空隊との合同訓練

火災件数の推移



警備担当では、職員に教養訓練を行うとともに様々な消防訓練を実施し、職員の災害対応力の強化に努めています。

また、地理水利の維持管理、市民への消火器および消火栓取扱い指導、通信施設整備、気象情報管理などの業務を行っています。



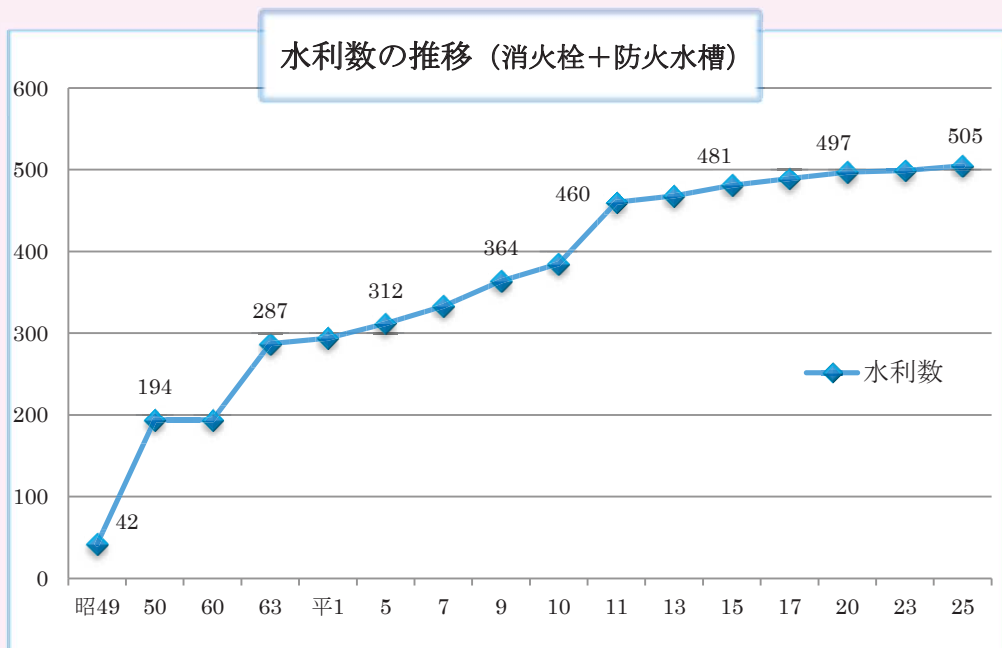
行政区への消火用器具補助事業



地理水利調査



消火器取扱い指導





警 防 課

救急救助担当では、救急救助に関する訓練・統計、応急手当普及啓発に関する業務などを行っています。

救 急

救急業務を昭和44年9月1日から開始して以来、救急出動件数は増加傾向にあります。また、複雑多様化する救急要請に対応するために、救急救命士を育成し様々な事案を想定した訓練を行っています。

更に、救命率を向上させるにはバイスタンダー（現場に居合わせた人）の役割が重要であるため、市民への応急手当の普及に努めています。



市民への救急講習



多数傷病者想定訓練

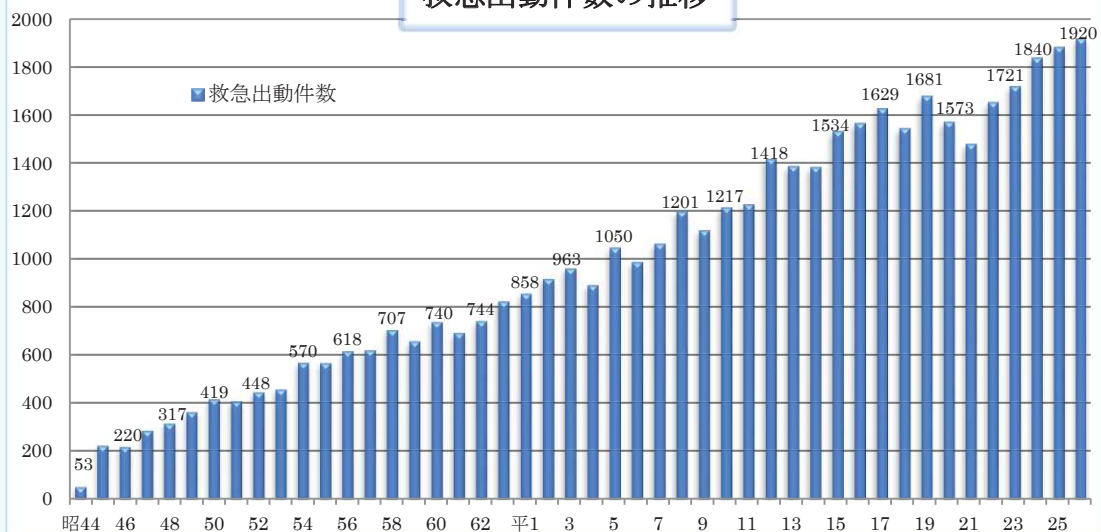


ドクヘリ(医師)との合同訓練



筑後地域メディカルラリー大会

救急出動件数の推移



救助

救助業務とは、火災や事故などにより生命・身体の危険が切迫する場所から安全な場所に救出し救命する業務です。救助活動件数は、平成8年まで増加傾向でしたが近年は横ばい状態にあります。

救助活動を迅速かつ的確に行うためには、救助隊の装備する資機材の充実はもとより、救助隊員自身の知識や技術の向上を図る必要があります。また、現場では救助隊だけではなく他隊との連携も必要であり、出動隊全員が一丸となり日頃から厳しい訓練を重ね、強靱な身体と気力の養成に努めています。



応急梯子救出訓練



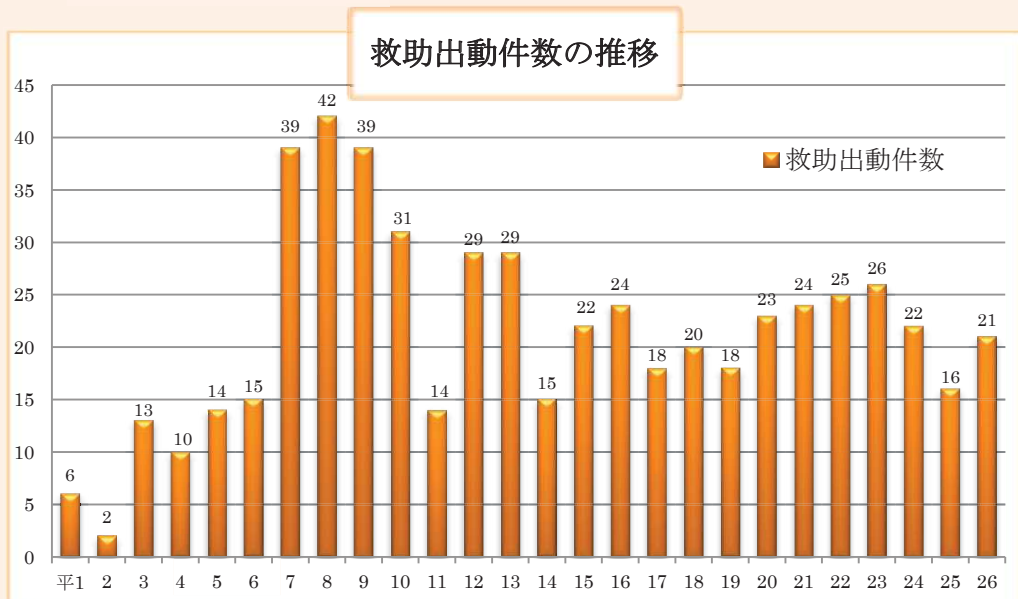
水難救助訓練



引揚救出訓練



交通事故救助訓練



予 防 課

指 導

指導担当では、火災原因調査および統計に関する業務や新築建物の設計における防災上の審査、既存建物の立入検査を行い消防用設備等の維持管理指導などを行っています。

また、幼少年婦人防火クラブの育成指導の他、消防設備士会と協力して市民の防火思想向上に努めています。



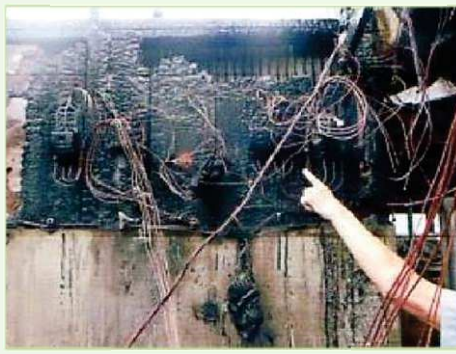
防火管理者講習会



幼年消防クラブ(避難訓練)



女性防火クラブ(炊出し訓練)



火災原因調査

防火対象物数の推移



予防

予防担当では、主に危険物施設の各種届出や許認可に関する業務を行っています。

また、立入検査を実施し危険物施設の保安管理などについて指導しています。更に防災協会と協力して市内事業所へ防火思想の普及に努めています。



筑後市防災協会50周年記念式典(平成27年)

歴代防災協会長

代位	氏名	就任	退任
初代	渡辺 才助	昭和40年10月21日	昭和57年 6月30日
二代	大霧 武二	昭和57年 7月 1日	平成 2年 6月29日
三代	緒方 匠	平成 2年 6月30日	平成 6年 6月28日
四代	重野 春夫	平成 6年 6月29日	平成16年 6月27日
五代	田中 万弘	平成16年 6月28日	平成26年 6月27日
六代	大霧 司朗	平成26年 6月28日	—



中間検査(地下タンク)



完成検査(自家給油取扱所)





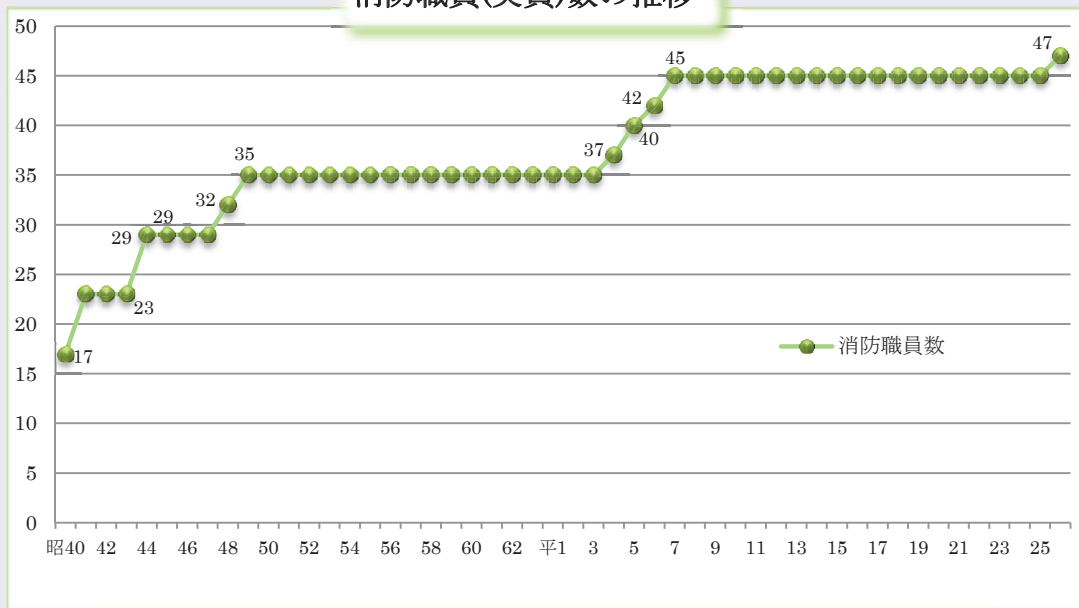
総務課

総務

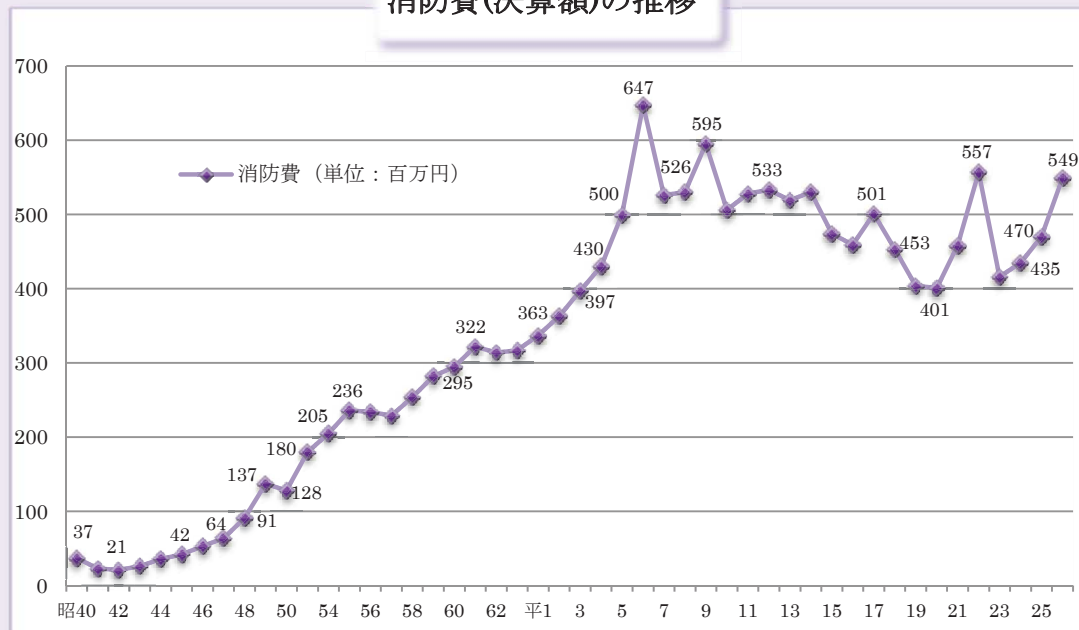
総務担当では、消防予算の調整、庁舎等施設や一般備品の維持管理、職員の勤務配置および服務規制に関することなどの業務を行っています。

また、社会情勢の変化に伴い多様化する災害に対応するため、消防力の増強を行っており、現在(平成27年)47名の職員で筑後市の安全安心を守っています。

消防職員(実員)数の推移



消防費(決算額)の推移



消防団

消防団担当では、消防団の予算、教養訓練および消防団車両の機械器具等に関する業務を行っています。

筑後市消防団は、7個分団、定員356名で組織されており、平成15年から女性消防団員の任用も始まりました。郷土愛精神のもとに消火活動や風水害などの災害対応、その他防火広報活動、応急手当普及活動等に努めています。



消防出初式



軽可搬ポンプ操法(女性消防団員)



筑後支部操法大会



年末夜警巡視

歴代消防団長

代位	氏名	就任	退任	在職期間
初代	木下芳太郎	昭和29年 4月 1日	昭和30年 3月31日	1年
二代	古賀金太郎	昭和30年 4月 1日	昭和32年 3月31日	2年
三代	中尾 清次	昭和32年 4月 1日	昭和42年 3月31日	10年
四代	緒方 匠	昭和42年 4月 1日	昭和52年 3月31日	10年
五代	山口 昭司	昭和52年 4月 4日	昭和58年 3月31日	6年
六代	平島 直吉	昭和58年 4月 1日	平成 9年 3月31日	14年
七代	大霧 洋海	平成 9年 4月 1日	平成15年 3月31日	6年
八代	角 一 徳	平成15年 4月 1日	—	現在

統計資料

● 筑後市の人口・世帯数

年号(昭和)	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
人口(人)	42,571	42,458	42,414	42,536	42,242	38,810	39,055	39,247	39,554	39,648	39,882	40,082	40,640	41,156	41,536
世帯数	8,445	8,551	8,676	8,809	8,967	8,432	8,932	9,010	9,171	9,287	9,434	9,625	9,818	10,058	10,231

	55	56	57	58	59	60	61	62	63
人口(人)	41,936	42,171	42,289	42,581	43,157	43,324	43,378	43,583	43,632
世帯数	10,336	10,497	10,703	10,800	11,288	11,356	11,476	11,566	11,684

年号(平成)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
人口(人)	43,758	43,959	44,153	44,249	44,617	45,102	45,254	45,709	46,286	46,666	46,975	47,362	47,418	47,487	47,846
世帯数	11,838	11,987	12,160	12,459	12,748	13,032	13,240	13,568	13,926	14,152	14,456	14,686	14,834	14,990	15,263

	16	17	18	19	20	21	23	25	26
人口(人)	47,891	48,125	48,279	48,432	48,506	48,513	48,741	49,076	49,075
世帯数	15,442	15,672	16,110	16,393	16,529	16,857	17,243	17,867	18,061

※ 昭和45年の減少は、住民台帳実態調査整理によるもの

● 各種統計

年号(昭和)	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
火災件数	12	21	20	21	22	18	16	31	19	33	41	24	31	41	27
火災損害額(千円)	521	19,209	10,576	4,943	40,572	2,007	94,738	5,963	3,902	22,311	—	22,524	9,031	29,201	44,993
救急出動件数	—	—	—	—	53	225	220	287	317	365	419	410	448	460	570
救助出動件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水利数(消火栓・防炎水槽)	—	—	—	—	14	16	30	—	35	40	43	126	153	160	167
職員数(実員:人)	17	23	23	23	29	29	29	29	32	35	35	35	35	35	35
防火対象物数	378	399	421	436	449	467	481	491	509	516	530	555	584	611	663
危険物施設数	44	51	73	89	104	112	118	138	150	179	185	196	211	230	246
消防費(決算額:千円)	37,384	23,174	21,885	25,891	35,708	41,844	53,473	63,621	91,132	136,587	128,167	—	—	180,278	204,710
市予算(一般会計)における割合	5.8	3.1	2.4	2.6	2.8	3.0	3.0	3.0	3.3	4.2	3.5	—	—	3.0	3.1

年号(昭和)	55	56	57	58	59	60	61	62	63
火災件数	30	32	23	31	20	20	16	22	19
火災損害額(千円)	69,871	75,494	26,379	254,096	11,221	60,061	5,880	18,829	80,214
救急出動件数	419	410	440	460	570	740	694	744	926
救助出動件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水利数(消火栓・防炎水槽)	173	179	181	183	188	194	199	206	287
職員数(実員:人)	35	35	35	35	35	35	35	35	35
防火対象物数	734	751	770	794	791	758	787	813	880
危険物施設数	236	241	244	255	259	260	256	236	235
消防費(決算額:千円)	235,994	233,536	229,300	254,253	281,918	295,014	322,256	314,241	317,443
市予算(一般会計)における割合	3.0	2.9	2.8	3.3	3.6	3.3	3.4	3.2	3.1

※ 救急業務は昭和44年の月より開始

※ 水利数については、昭和50年以前は消火栓を含まない

年号(平成)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
火災件数	20	23	23	17	25	39	37	19	23	26	25	18	17	13	15
火災損害額(千円)	20,027	97,758	109,808	55,443	102,641	87,937	147,208	36,909	220,857	154,908	66,545	34,055	18,645	31,644	40,799
救急出動件数	858	919	963	893	1,050	989	1,065	1,201	1,121	1,217	1,230	1,418	1,388	1,385	1,534
救助出動件数	6	2	13	10	14	15	39	42	39	31	14	29	29	15	22
水利数(消火栓・防炎水槽)	294	300	299	293	312	317	333	348	364	365	460	464	468	473	481
職員数(実員:人)	35	35	35	37	40	42	45	45	45	45	45	45	45	45	45
防火対象物数	950	1,054	1,069	1,130	1,216	1,254	1,322	1,389	1,464	1,475	1,520	1,551	1,575	1,649	1,706
危険物施設数	244	232	237	239	232	235	238	237	229	234	233	236	230	228	216
消防費(決算額:千円)	336,676	362,673	397,394	429,642	500,056	646,652	525,616	529,597	595,410	506,284	528,409	532,589	518,804	529,278	474,901
市予算(一般会計)における割合	2.9	3.2	3.0	3.0	3.0	3.9	3.8	3.4	3.6	3.1	3.2	3.3	3.6	3.6	3.1

年号(平成)	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
火災件数	20	22	25	15	19	18	15	16	15	13	11
火災損害額(千円)	17,034	9,752	63,404	9,099	21,735	24,665	15,314	74,362	18,357	10,665	58,488
救急出動件数	1,567	1,629	1,546	1,681	1,573	1,480	1,654	1,721	1,840	1,884	1,920
救助出動件数	24	18	20	18	23	24	25	26	22	16	21
水利数(消火栓・防炎水槽)	486	489	492	499	497	497	499	499	504	505	505
職員数(実員:人)	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	47
防火対象物数	1,791	1,869	1,942	2,025	2,079	2,059	2,065	2,156	2,191	2,219	2,211
危険物施設数	216	203	191	185	183	172	171	169	161	159	161
消防費(決算額:千円)	458,885	501,605	452,914	404,083	400,574	458,450	557,166	415,832	435,196	469,569	549,264
市予算(一般会計)における割合	3.0	3.1	3.0	2.9	2.9	2.9	3.1	2.6	2.7	2.9	2.9

● 集合写真



昭和42年(1967) 4月1日



平成27年(2015) 4月1日

筑後市消防本部 50周年記念誌

発行日 平成27年10月
企画・編集 筑後市消防本部 50周年
記念誌作成委員会
発行・印刷 筑後市消防本部
筑後市大字山ノ井 900番地
TEL 0942-52-2020

